令和７年９月９日（火曜日）

佐伯市立宇目緑豊中学校　江藤　一弘先生の授業です。

授業の単元は、第１学年「文字と式」。同じ長さの棒を組み合わせて作った立方体をx個つなげたときに必要な棒の本数を、正方形をつなげたときに必要な棒の本数の求め方と関連付け、文字式で表し、考え方を説明をする場面です。

授業開始前には、前時の学習内容である正方形をつなげた棒の本数の求め方を、生徒との対話を通して振り返り、本時の学習への意欲付けを行っていました。

そして、導入では、ICT 端末を活用し、棒の並べ方をシミュレーションする中で問題解決の見通しをもたせていました。一人一人の生徒が自分の考えを形成した後、同じ考え方同士の生徒でグループを作成し、数学的な表現を意識しながら説明し合わせ、それぞれの考え方をより確かなものにさせる工夫がなされていました。

また、「まとめ」の場面においては、生徒に課題解決に向けて着目した点を問うなど、生徒の言葉で授業を作りあげようと心掛けていました。授業全体を通して、生徒指導の３機能（自己存在感の感受・共感的な人間関係の育成・自己決定の場の提供）を生かすとともに、授業規律の徹底を意識した取組がなされていました。

事後研では、「努力を要する状況」にある生徒への手立てを設定するために、生徒がつまずく場面を想定すること、前時の正方形の棒の本数のときと同じように「具体的な個数で考える」「まとまりに着目する」といった見方・考え方に関連付ける展開を意識することなどについて確認しました。今後も生徒指導の３機能等を意識した授業に取り組まれ、生徒が安心して活動に取り組める授業づくりを続けてほしいと思います。